愛知教育大学研究報告，42（芸術・保健体育・家政・技術科学），pp. 99～112, February, 1993

喫煙習慣からみた青少年の Passive Smoking に対する反応ならびに自覚症状に関する研究

村　松　常　司（健康科学選修）
村　松　園　江（東海学園女子短期大学保健体育）
原　田　久　美（東加茂郡旭町立旭中学校）
村　松　成　司（千葉大学教養部保健体育）
堀　安　高　綾（東京商船大学保健体育）
金　子　修　己・伊　藤　　章（中部大学保健体育系列）

Smoking Habits among School Children and Students, and the Subjective Symptoms due to Passive Smoking

Tsuneji MURAMATSU (Department of Health Science)
Sonoe MURAMATSU (Department of Physical Education, Faculty of Liberal Arts, Tokaigakuen Women's Junior College)
Kumi HARADA (Asahi Junior High School at Higashikamo - gun)
Shigeji MURAMATSU (Department of Health and Physical Education, The College of Arts and Sciences, Chiba University)
Takaaya HORIYASU (Department of Physical Education, Faculty of Liberal Arts, Tokyo University of Mercantile Marine)
Osami KANEKO, Akira ITO (Department of Health and Physical Education, Chubu University)

I．は　じ　め　に

たばこ煙には喫煙者がたばこ自体を通して吸い込む主流煙と，点火部から立ち昇る副流煙とがあり，同席者はそれらの混じり合った煙（剰余煙：Second - Hand Tobacco Smoke）を吸う。このように非喫煙者が自らの意志に反してたばこ煙を吸引することを Passive Smoking といい，日本語では受動喫煙がそれにあたる。近年，Passive Smoking の影響については目が痛い，鼻がツーンとなる，喉が痛いなどの自覚症状を中心とする報告[1)-4)]から，肺がん[5)]や心筋梗塞[6)]の危険性を指摘する報告まで幅広くなされており，その影響は無視できない。

我々[7)8)]は1976年に小・中・高校生を対象にして Passive Smoking の影響調査を行い，男子より女子に，年長者より年少者に，また，Passive Smoking に無関心である者より嫌う者に自覚症状の多いことを報告したが，当時としては小・中・高校生の喫煙習慣について調査することができなかったことから，喫煙習慣との関連を追究することができなかった。

そこで今回，小・中・高校生の喫煙状況を把握し，彼らの Passive Smoking に対する反応や自覚症状，及び家族の喫煙状況との関連について追究し，併せて，それらの15年間の変化を比較した。

II．調　査　方　法

1．調査対象

調査対象は愛知県下の小学校２校の５，６年生463名（男子241名，女子222名），中学校１校の１，２，３年生420名（男子226名，女子194名），高校１校の１，２，３年生637名（男子303名，女子334名）の合計1520名である。

2．調査期間ならびに方法

調査は平成２年９月～10月に無記名質問紙法により行った。小学生・中学生においては担任によりホームルーム時に，高校生においては保健体育の授業時に，その場で記入させ回収した。尚，本調査は本人の喫煙経験を聞くことから，個人の秘密保持のため，回答後の質問用紙は各自の封筒に入れさせ回収した。

3．調査項目

調査項目は以下に示すように，本人の喫煙，兄弟の喫煙，将来の喫煙意志の質問項目をはじめとする16項目とした。なお，小学生用アンケートは漢字を平仮名にするなどして理解しやすいようにした。

たばこについてのアンケート

(1)　学校・学年　　（小・中・高等）学校　　（　）年

(2)　性別　　1）男　　2）女

(3)　あなたのお父さんは，たばこを吸っていますか。当てはまるものを選んでください。
　1）吸っている　　2）吸っていない　　3）わからない

(4)　あなたのお母さんは，たばこを吸っていますか。当てはまるものを選んでください。
　1）吸っている　　2）吸っていない　　3）わからない

(5)　あなたは何人兄弟ですか。（自分は含まない）　　（　　）人

(6)　兄弟のいる人に聞きます。
　あなたの兄弟でたばこを吸う人は何人いますか。　　（　　）人

(7)　お父さんかお母さんがたばこを吸っている人に聞きます。
　お父さんかお母さんがたばこを吸うことをどう思いますか。１つ選んでください。
　1）良いと思う　　4）息とか服についたたばこの臭いが嫌い
　2）健康を心配する　　5）何も思わない
　3）お金がかかるのを心配する　　6）その他（　　）

(8)　お父さんとお母さんがたばこを吸っていない人に聞きます。
　お父さんとお母さんがたばこを吸わないのをどう思いますか。
　1）良いと思う　　3）何も思わない
　2）残念に思う　　4）その他（　　）

(9)　あなたはたばこを吸ったことがありますか。
　1）はい　　2）いいえ

(10)　９の問で「はい」と答えた人に聞きます。きっかけは何ですか。

1）友人にすすめられて　　6）かっこいいから
2）好奇心から　　7）おいしそうだから
3）親が吸っているから　　8）なんとなく
4）ストレスから　　9）その他（　　）
5）大人のふりをしたくて
※小学生には2）4）の質問は削除した。

(11) 今も吸っていますか。
1）毎日吸っている　　3）気がむいたとき吸っている
2）週に2～3度吸っている　　4）吸っていない

(12) あなたは大人（20歳）になったときたばこを吸うつもりですか。
1）はい　　2）いいえ

(13) 12の問で「はい」と答えた人に聞きます。理由は何ですか。
1）親が吸っているから　　5）いま吸っているから
2）大人だから　　6）ストレス解消のため
3）かっこいいから　　7）なんとなく
4）おいしそうだから　　8）その他（　　）
※小学生には6）の質問は削除した。

(14) 12の問いで「いいえ」と答えた人に聞きます。理由は何ですか。
1）体に良くないから　　5）まわりの人に迷惑がかかるから
2）親が吸っていないから　　6）息とか服についた臭いが嫌いだから
3）お金がかかるから　　7）なんとなく
4）吸っている人が嫌いだから　　8）その他（　　）

(15) あなたの近くでだれかがたばこを吸うのをどう感じますか。
1）感じ悪い　　3）感じ良い
2）何も感じない　　4）その他（　　）

(16) あなたの近くでだれかがたばこを吸っていると何か影響がありますか。当てはまるものをすべて選んで下さい。
1）何もない　　6）はき気がする
2）眼が痛くなる　　7）めまいがする
3）涙がでる　　8）頭が痛くなる
4）せきがでる　　9）鼻がツーンとなる
5）喉が痛くなる　　10）その他（　　）

4．分析方法

データ処理にあたっては，名古屋大学大型計算機センター FACOM M-382 を使用し，演算には SPSS 第9版を用い，比較は x^2 検定を用いて行った。

Ⅲ．調　査　結　果

1．両親の喫煙状況

父親の喫煙者率は56.4%，母親は8.0%であった。両親とも喫煙している家庭は6.9%，父親のみ喫煙している家庭は49.9%，母親のみ喫煙している家庭は0.9%，両親とも喫煙し

ていない家庭は42.3%であった。以下，どちらか一方でも親が喫煙している家庭を喫煙家庭（57.7%）とし，両親とも喫煙していない家庭を非喫煙家庭（42.3%）とする。

2．兄弟の喫煙状況

兄弟の喫煙者率は全体で7.7%であった。

3．本人の喫煙状況

一度でもたばこを吸ったことのある者の割合（以下，喫煙経験率）は，小学生6.5%（男子10.8%，女子1.8%），中学生9.8%（男子16.1%，女子2.6%），高校生14.5%（男子24.2%，女子5.7%）といずれも男子の方が高く（P＜0.01），また，男女とも学年が上がるにつれてその割合は有意な上昇となった（男子：P＜0.01，女子：P＜0.05）。

（1）両親の喫煙状況別比較

本人の喫煙経験率を喫煙家庭と非喫煙家庭とで比較してみると，それぞれ小学生7.4%，4.4%，中学生10.9%，7.8%，高校生16.9%，12.6%であり，いずれも喫煙家庭の方が高かったが，統計的には有意な差は認められなかった。

（2）兄弟の喫煙状況別比較

本人の喫煙経験率を兄弟が喫煙するかしないかで比較してみると，それぞれ小学生17.6%，6.1%，中学生25.0%，8.4%，高校生30.6%，12.7%であり，いずれも兄弟が喫煙する者の方が高い（小学生：P＜0.05，中・高校生：P＜0.01）。

4．現在の喫煙状況

喫煙経験者の現在の喫煙状況は，男子では，毎日吸っている者は小学生0.0%，中学生15.6%，高校生17.4%，以下，週に2～3回吸う者は0.0%，9.4%，0.0%，気がむいた時吸う者は8.3%，18.8%，15.9%であった。一方，女子では，中学生の2名が毎日吸っており，高校生の2名が気がむいた時吸っていた。また，対象者全体からみた小・中・高校生の現在の喫煙者率（毎日吸っている＋週に2～3回吸う＋気がむいた時吸う）を算出してみると，男子では小学生0.8%，中学生6.4%，高校生7.7%であり，女子では小学生0.0%，中学生1.0%，高校生0.6%であった。

5．Passive Smoking に対する反応

表1　Passive Smoking に対する反応（%）

反　応	男	女	計
感じ悪い	529(70.8)	612(85.0)	1141(77.8)
何も感じない	211(28.2)	108(15.0)	319(21.6)
感じ良い	7(0.9)	0(0.0)	7(0.5)
計	747(100.0)	720(100.0)	1467(100.0)
無回答	17	26	43

df=1，P<0.01（「感じ悪い」と「何も感じない＋感じ良い」の比較）

表 2　Passive Smoking による自覚症状（%）

症　状	男	女	計	男女の比較
何もない	274(36.4)	160(22.2)	434(29.4)	0.01
せきがでる	231(30.7)	325(45.1)	556(37.7)	0.01
頭が痛くなる	99(13.1)	156(21.6)	255(17.3)	0.01
のどが痛くなる	91(12.1)	155(21.5)	246(16.7)	0.01
鼻がツーンとなる	112(14.9)	118(16.4)	230(15.6)	N. S.
目が痛くなる	81(10.8)	85(11.8)	166(11.3)	N. S.
吐き気がする	63(8.4)	102(14.1)	165(11.2)	0.01
涙が出る	52(6.9)	44(6.1)	96(6.5)	N. S.
めまいがする	26(3.5)	26(3.6)	52(3.5)	N. S.
臭い	30(4.0)	13(1.8)	43(2.9)	0.05
息苦しい	15(2.0)	8(1.1)	23(1.6)	N. S.
気持ち悪い	7(0.9)	15(2.1)	22(1.5)	N. S.
その他	13(1.7)	11(1.5)	24(1.6)	N. S.
100%N	753	721	1474	——
無回答	17	29	46	——

（複数回答あり）

表1は Passive Smoking に対する反応を示す。男女とも「感じ悪い」が多く，それぞれ70.8%，85.0%であり，「何も感じない」は28.2%，15.0%であった。Passive Smoking に対しては，男子より女子に「感じ悪い」の割合が多かった。「感じ良い」はわずか7名であった。以下「感じ悪い」を「嫌う者」，「感じ良い＋何も感じない」を「無関心の者」として分類して比較する。

（1）両親の喫煙状況別比較

Passive Smoking を嫌う者の割合を喫煙家庭と非喫煙家庭とで比較してみると，小学生では76.7%，85.4%（$P<0.05$），中学生では66.5%，80.6%（$P<0.01$）であり，非喫煙家庭の方が高いことが認められた。高校生では両親の喫煙状況による違いはみられなかっ

た（それぞれ80.4%，80.2%）。また，男女とも非喫煙家庭に Passive Smoking を嫌う者の割合が高く，男子では67.3%，75.0%，女子では82.9%，87.6%であり，統計的には男子において有意差が認められた（P＜0.05）。

（2）兄弟の喫煙状況別比較

Passive Smoking を嫌う者の割合を兄弟が喫煙するかしないかで比較してみると，それぞれ小学生76.5%，80.2%，中学生47.1%，73.6%（P＜0.01），高校生68.3%，81.6%（P＜0.05）であり，いずれも兄弟が喫煙しない者に Passive Smoking を嫌う割合が高かった。また，男女ともに兄弟が喫煙しない者に嫌う者が多かった。

6．Passive Smoking による自覚症状

表2は Passive Smoking による自覚症状を示す。症状の中では「せきが出る」の37.7%が多く，以下，「頭が痛くなる」，「のどが痛くなる」，「鼻がツーンとなる」が続いた。また，「何もない」，「臭い」の割合は男子の方が高く，「せきが出る」，「頭が痛くなる」，「のどが痛くなる」，「吐き気がする」は女子に多いことが認められた。

また，症状があると回答した者の男女別比較では，男子63.0%，女子77.5%であり，女子に自覚症状のある者が多く（P＜0.01），小・中・高校生の比較では，症状のある者がそれぞれ73.9%，73.1%，66.4%であり，高校生の割合が低かった（P＜0.01）。

（1）本人の喫煙経験別比較

自覚症状のある者の割合を喫煙経験のある者とない者で比較してみると，いずれも喫煙経験のない者の方に自覚症状があるとする者が多く，それぞれ小学生70.0%，74.4%，中学生64.1%，74.1%，高校生42.0%，70.3%（P＜0.01）であった。また，喫煙経験のある者とない者の比較では，ない者の方が自覚症状の訴えが多く，それぞれ男子49.2%，66.8%（P＜0.01），女子72.0%，78.0%であった。

表3　両親の喫煙に対する反応（%）（喫煙家庭の生徒を対象とした）

反　応	男	女	計	男女の比較
健康を心配する	248(53.8)	279(67.7)	527(60.4)	0.01
臭いが嫌い	87(18.9)	81(19.7)	168(19.2)	N. S.
お金が心配	13(2.8)	5(1.2)	18(2.1)	N. S.
何も思わない	86(18.7)	21(5.1)	107(12.3)	0.01
良いと思う	8(1.7)	3(0.7)	11(1.3)	N. S.
その他	19(4.1)	23(5.6)	42(4.8)	N. S.
計	461(100.0)	412(100.0)	873(100.0)	——
無回答	4	1	5	——

（2）Passive Smoking に対する反応別比較

自覚症状のある者の割合を Passive Smoking を嫌う者と無関心の者で比較してみると，それぞれ小学生80.9%，46.7%，中学生82.5%，50.4%，高校生75.5%，32.5%であり，いずれも「嫌う」者の方が多かった（P＜0.01）。また，性別に比較しても「嫌う」者に自覚症状が多く，男子では73.8%，41.0%，女子では83.4%，46.3%であり，いずれも有意の差が認められた（いずれもP＜0.01）。

7．両親の喫煙に対する反応

表3に示すように，両親の喫煙に対する反応は，男女ともに「健康を心配する」が多く，それぞれ53.8%，67.7%であり，以下，「臭いが嫌い」，「何も思わない」が続いた。「健康を心配する」は女子に多く，「何も思わない」は男子に多かった。

8．両親の非喫煙に対する反応

両親の非喫煙に対する反応は，男女ともに「良いと思う」が多数を占め，それぞれ87.5%，96.9%であり，統計的には女子の割合の方が多い（P＜0.01）。

9．将来の喫煙意志

将来喫煙する意志のある者の割合は，小学生9.1%，中学生10.0%，高校生5.9%であっ

表4　喫煙のきっかけ（%）　　（喫煙経験がある者を対象とした）

理　由	中学生	高校生	計
好奇心から	17(44.7)	36(41.9)	53(42.7)
友人にすすめられて	7(18.4)	19(22.1)	26(21.0)
なんとなく	7(18.4)	14(16.3)	21(16.9)
かっこいいから	5(13.2)	2(2.3)	7(5.6)
ストレスから	1(2.6)	5(5.8)	6(4.8)
おいしそうだから	2(5.3)	3(3.5)	5(4.0)
おじにすすめられた	0(0.0)	5(5.8)	5(4.0)
親が吸っているから	1(2.6)	3(3.5)	4(3.2)
大人のふりをしたくて	0(0.0)	1(1.2)	1(0.8)
冗談で	1(2.6)	0(0.0)	1(0.8)
何だか知らなかった	0(0.0)	1(1.2)	1(0.8)
100%N	38	86	124
無回答	3	6	9

（複数回答あり）

た。また，男女別に比較してみると，男子に将来の喫煙の意志の多いことが認められた（P＜0.01）。

（1）両親の喫煙状況別比較

将来喫煙する意志のある者の割合を喫煙家庭と非喫煙家庭とで比較してみると，それぞれ小学生10.7%，6.9%，中学生13.2%，4.6%，高校生7.6%，4.3%であり，いずれも喫煙家庭の者の方が高く，統計的には中学生において有意な差が認められた（P＜0.05）。

（2）兄弟の喫煙状況別比較

将来喫煙する意志のある者の割合を兄弟が喫煙するかしないかで比較してみると，それぞれ小学生17.6%，8.8%，中学生20.6%，9.1%，高校生18.3%，4.5%であり，いずれも兄弟が喫煙する者の方が高く，統計的には中学生と高校生において有意な差が認められた（中学生：P＜0.05，高校生：P＜0.01）。

（3）本人の喫煙経験別比較

将来喫煙する意志のある者の割合を喫煙経験のある者とない者とで比較してみると，それぞれ小学生30.0%，7.7%，中学生41.0%，6.8%，高校生31.8%，1.5%であり，いずれも喫煙経験のある者の方が有意に高かった（P＜0.01）。

（4）Passive Smoking に対する反応別比較

表5　将来喫煙する理由（%）　（将来吸うと回答した者を対象とした）

理　由	中学生	高校生	計
なんとなく	16(39.0)	11(30.6)	27(35.1)
ストレス解消のため	7(17.1)	7(19.4)	14(18.2)
おいしそうだから	5(12.2)	5(13.9)	10(13.0)
今吸っているから	3(7.3)	5(13.9)	8(10.4)
大人だから	5(12.2)	2(5.6)	7(9.1)
かっこいいから	2(4.9)	2(5.6)	4(5.2)
親が吸っているから	3(7.3)	0(0.0)	3(3.9)
興味があるから	0(0.0)	2(5.6)	2(2.6)
落ち着くから	0(0.0)	1(2.8)	1(1.3)
成り行き	0(0.0)	1(2.8)	1(1.3)
100%N	41	36	77

（複数回答あり）

将来喫煙する意志のある者の割合を Passive Smoking を嫌う者と無関心の者で比較してみると，それぞれ小学生5.8%，22.2%，中学生3.1%，26.7%，高校生1.4%，23.7%であり，いずれも「無関心」の方が有意に高かった（P＜0.01）。

10. 喫煙のきっかけ

小学生の喫煙のきっかけは「なんとなく」37.9%が多く，以下「1回吸ってみたかった」，「おもしろそうだから」が続いた。また表4は中・高校生の喫煙のきっかけを示すものであり，「好奇心から」がそれぞれ44.7%，41.9%と多く，以下「友人にすすめられて」，「なんとなく」，「かっこいいから」が続いた。

11. 将来喫煙する理由

将来喫煙すると回答した者の理由は，小学生では「なんとなく」45.2%が多く，「大人だから」26.2%，「おいしそうだから」16.7%の順であった。また，中•高校生では，表5に示すように，「なんとなく」が多く，それぞれ39.0%，30.6%であり，以下，「ストレス解消のため」，「おいしそうだから」，「今吸っているから」と続いた。

12. 将来喫煙しない理由

将来吸わない理由については，表6に示すように，小・中・高校生いずれも「体に良くないから」が多く，それぞれ85.2%，73.6%，74.4%であった。以下，「たばこの臭いが嫌い」，「周りの人に迷惑」と続いた。表7はこれらの理由を性別に比較したものであり，男女とも「体に良くないから」が多く，それぞれ75.1%，79.7%，以下，「たばこの臭いが嫌い」17.7%，26.4%，「周りの人に迷惑」15.9%，18.4%と続いた。「体によくないから」

表6　将来喫煙しない理由（%）　（将来吸わないと回答した者を対象とした）

理　由	小学生	中学生	高校生	計
体に良くないから	351(85.2)	262(73.6)	413(74.4)	1026(77.6)
たばこの臭いが嫌い	78(18.9)	60(16.9)	157(28.3)	295(22.3)
周りの人に迷惑がかかる	85(20.6)	34(9.6)	109(19.6)	228(17.2)
吸っている姿が嫌い	16(3.9)	26(7.3)	113(20.4)	155(11.7)
お金がかかるから	33(8.0)	19(5.3)	64(11.5)	116(8.8)
なんとなく	23(5.6)	23(6.5)	31(5.6)	77(5.8)
親が吸っていないから	7(1.7)	5(1.4)	9(1.6)	21(1.6)
その他	3(0.7)	12(3.4)	16(2.9)	31(2.3)
100%N	412	356	555	1323
無回答	6	12	24	42

（複数回答あり）

表7　将来喫煙しない理由（%）　（将来吸わないと回答した者を対象とした）

理　由	男	女	計	男女の比較
体に良くないから	467(75.1)	559(79.7)	1026(77.6)	0.05
たばこの臭いが嫌い	110(17.7)	185(26.4)	295(22.3)	0.01
周りの人に迷惑	99(15.9)	129(18.4)	228(17.2)	N.S.
吸っている姿が嫌い	47(7.6)	108(15.4)	155(11.7)	0.01
お金がかかるから	87(14.0)	29(4.1)	116(8.8)	0.01
なんとなく	42(6.8)	35(5.0)	77(5.8)	N.S.
親が吸っていない	13(2.1)	8(1.1)	21(1.6)	N.S.
その他	17(2.7)	14(2.0)	31(2.3)	N.S.
100%N	622	701	1323	——
無回答	21	21	42	——

（複数回答あり）

「たばこの臭いが嫌い」，「吸っている姿が嫌い」は男子より女子に多く，「お金がかかるから」は女子より男子に多いことが認められた。

Ⅳ．考　　察

本人の喫煙経験は両親，兄弟，友人の喫煙状況と密接に関連していることは種々報告されている[9)-13)]。本調査においても，喫煙家庭の子供の喫煙経験率は非喫煙家庭の子供より高く，両親の喫煙が子供の喫煙行動に影響していることが示されている。また，喫煙経験率を兄弟が喫煙するかしないかで比較すると，小・中・高校生のいずれも兄弟が喫煙する者に喫煙経験率が高いことが認められ，両親同様，兄弟の影響も大きいことが確認された。

今回対象とした小•中•高校生の両親の喫煙者率は，父親56.4%，母親8.0%であり，1990年の日本たばこ産業の調査結果（男性60.5%，女性14.3%）[14)]と比較すると低率であった。この両親の喫煙に対しては，男子の53.8%，女子の67.7%が「健康を心配する」と回答しており，男女とも過半数を超える者が喫煙する両親の健康を心配しており，その傾向は男子より女子に強い。1976年の調査[7)8)]においても，男子（59%）より女子（76%）に両親の健康を心配する割合が高かった。一方，両親の非喫煙に対しては1976年の調査では75%（男69.7%，女80.3%），本調査では92%（男87.5%，女96.9%）が「良い」と回答しており，男女とも多くが両親の非喫煙を「良い」としている。15年前も今回（1990年）も両親の喫煙には否定的であり，非喫煙には肯定的であるが，その割合は本調査の方が高い。

Passive Smoking に対して，男子の70.8%，女子の85.0%が「嫌い」と回答しており，その割合は女子に多い。1976年の報告[7)8)]では男子52.4%，女子64.6%であり，本調査の「嫌い」の割合が男女とも多いが（$P<0.01$，x^2 検定），男子より女子に嫌う者の割合が多いことについては前回も今回も同様であった。この Passive Smoking に対する否定的イメージの増加には，近年の我が国の成人男性の喫煙者率の低下，嫌煙運動，喫煙防止教育の普及など喫煙を取り巻く環境の社会的変化が考えられる。しかし，20歳代女性の喫煙者率の上昇や成人男子の60%[14)]が未だ喫煙者であることなどの現実もある。

小・中学生では喫煙家庭より非喫煙家庭に Passive Smoking を嫌う者が多く，親の喫煙状況からみた Passive Smoking に対する反応に違いが認められ，子供たちの否定的イメージの強化には親たちの非喫煙の影響が大きいことが分かった。先の調査[7)8)]より Passive Smoking に対する否定的イメージを持つ児童の割合が増えたことは望ましいことではあるが，我が国では現在もテレビのたばこＣＭ[15)]による喫煙への誘惑が行われていることを考えると，今後，国レベルの早急な喫煙対策の必要性が感じられる。

喫煙のきっかけは，「好奇心から」が多く，野津[16)]，鈴木[17)]，白水ら[18)]の報告と一致した。また，学年が上がるにつれて「友人や先輩にすすめられて」が増加しており，加齢にともない交友関係が喫煙開始に大きく関与するようになる。

将来の喫煙意志についても喫煙経験と同様，両親や兄弟の喫煙状況との関連が認められた。また，喫煙経験がある者は，大人になった時喫煙すると回答した者が多く，一度でもたばこを口にすると将来喫煙者となる可能性が増すことは野津[16)]，川畑ら[19)]によっても指摘されており，本調査によっても確認された。

将来喫煙したいとする理由は，小・中・高校生ともに「なんとなく」が多く，特別な理由はみられない。また，２番目に多い理由が，小学生は「大人だから」，すなわち大人への模倣であるのに対して，中・高校生は「ストレス解消のため」といった喫煙の効用を挙げる者が多かった。しかし今回喫煙の効用として「ストレス解消のため」を挙げた生徒のほとんどは非喫煙者であり，現在「ストレス解消のため」に喫煙しているのではなく，一般的に言われている喫煙の効用を挙げているに過ぎない。

本調査では，Passive Smoking によって，男子の63.0%，女子の77.5%が一つ以上の自覚症状を訴えており，症状の中では「せきが出る」37.7%，「のどが痛い」16.7%が多く，その傾向は男子より女子に強かった。前回の報告[7)8)]でも，男女それぞれ63.3%，77.4%が自覚症状を訴えており，その割合はほとんど同じであった。この自覚症状の訴えの性差について，村松ら[20)]は実際にたばこ煙を曝露した実験的研究を行い，生理的な面では男女差はみられず，Passive Smoking の影響が女性の方に大きいとすれば，情緒的な面からの差であろうと指摘している。非喫煙者の⅔～¾が Passive Smoking 時には幾つかの症状を訴えることは事実であり，その中でも「せき」「のど」に関する症状が多いことからも，Colley ら[21)]や Cameron ら[22)]が報告しているように Passive Smoking の健康影響は呼吸器系疾患との関連が伺える。最近では，Passive Smoking と肺がん[5)]や心筋梗塞[6)]との関連を指摘する報告がなされており，非喫煙者へのたばこの曝露は厳禁したい。

将来喫煙しない理由は，男女ともに「体に良くないから」をあげる者が多く，それぞれ75.1%，79.7%であった。女子では「たばこの臭いが嫌い」，「吸っている姿が嫌い」と情緒的な面からが多く，男子ではお金を理由とする者が多く，性差がみられた。

喫煙経験や将来喫煙する意志のある者は，喫煙に対して好意的イメージを持っている者が多かった。すなわち，喫煙防止をすすめる上では，この喫煙に対する好意的イメージを低下させる必要がある。今回，喫煙家庭の子供は喫煙に対して好意的イメージを持っており，親の非喫煙が重要であることが明らかとなった。母親が喫煙者である場合，子供の喫煙に対して黙認の割合が多いという報告[23]もあり，子供が喫煙しないようにするためには，親の非喫煙，特に母親の非喫煙が大切となる。

V．要　　約

今日では，たばこ煙が喫煙者だけでなく，非喫煙者にも害を及ぼすことはもはや疑いの余地はない。本調査では小・中・高校生の喫煙状況を把握し，Passive Smokingに対する反応や自覚症状及び両親や兄弟の喫煙との関連について追究した。調査は小学生463名，中学生420名，高校生637名を対象として，平成２年９月～10月に無記名質問紙法によって行われ，以下に示す成績を得た。

（１）小•中•高校生の喫煙経験率は，小学生では男子10.8%，女子1.8%，以下中学生16.1%，2.6%，高校生24.2%，5.7%であり，いずれも女子より男子が高い。喫煙経験率は男女とも学年が上がるにつれて有意な上昇となり，両親や兄弟が喫煙している者は喫煙経験率が高かった。

（２）現在喫煙している者の割合は，小学生では男子0.8%，女子0.0%，以下，中学生6.4%，1.0%，高校生では7.7%，0.6%であった。

（３）Passive Smokingに対しては，男女とも「嫌う者」が多く，それぞれ70.8%，85.0%であり，また，両親や兄弟が喫煙しない者は，Passive Smokingを「嫌う者」が多かった。

（４）Passive Smokingによって自覚症状があると回答した者は，男子63.0%，女子77.5%であり，男子より女子に多かった。症状としては「せきが出る」の37.7%が多く，以下「頭が痛くなる」,「のどが痛くなる」,「鼻がツーンとなる」が目立った。Passive Smokingを嫌っている者は男女とも症状を訴えている者が多かった。

（５）Passive Smokingに対する反応を1976年の調査結果と本調査を比較してみると，男子では52.4%，70.8%，女子では64.6%，85.0%が「嫌い」と回答し，本調査の方が多かった。また，両者の自覚症状を訴えた者の割合を比較してみると，男子では63.3%，63.0%，女子では77.4%，77.5%であり，両調査ともほとんど同率であった。

（６）両親が喫煙することに対しては，男女ともに「健康を心配する」が多く，それぞれ53.8%，67.7%であり，以下，「臭いが嫌い」「何も思わない」が続いた。「健康を心配する」は女子に多く，「何も思わない」は男子に多かった。

（７）両親の非喫煙に対しては，男女ともに「良いと思う」が大多数を占め，それぞれ87.5%，96.9%であった。

（８）将来の喫煙意志のある者は，小学生9.1%，中学生10.0%，高校生5.9%であり，男女別では，それぞれ15.1%，0.7%であり，男子に多かった。

〈付記〉本研究を終えるにあたり，アンケートの配布，回収にご協力下さいました諸先生方に深く感謝致します。なお，本研究を進める上で多大なご協力をいただきました増田浩美氏（江南市役所）に厚く御礼申し上げます。

（平成４年８月31日受理）

〈参考文献〉

1）Speer F.：Tobacco and the Nonsmoker, A Study of Subjective Symptoms, Arch. Environ. Health, 16(3), 443-446, 1968

2）Cameron P.: Second-Hand Tobacco Smoke, Children's Reactions, The Journal of School Health, 62(5), 280-284, 1972

3）Weber A., et al. : Objektive und Sujektive Physiologische Wilkungen des Passivrauchens, Int. Arch. Occup. Environ. Health, 37(4), 277-288, 1976

4）Weber A., et al. : Irritating Effects on Man of Air Pollution due to Cigarette Smoke, American Journal of Public Health, 66(7), 672-676, 1976

5）Hirayama T.: Nonsmoking Wives of Heavy Smokers have a High Risk of Lung Cancer ; A Study from Japan, British Medical Journal, 282, 183-185, 1981

6）Aronow W. S. : Effect of Passive Smoking on Angina Pectoris, The New England Journal of Medicine, 299(1), 21-24, 1978

7）村松常司ら：喫煙の経験，習慣に影響を及ぼす諸要因の研究，第３報，両親の喫煙と中・高校生の Second-Hand Tobacco Smoke について，学校保健研究，19(2), 88-95, 1977

8）村松常司ら：喫煙の経験，習慣に影響を及ぼす諸要因の研究，第４報，両親の喫煙と小学生の Second - Hand Tobacco Smoke について，学校保健研究，19(8), 382-389, 1977

9）Horn D., et al. : Cigarette Smoking among High School Students, American Journal Public Health, 49(11), 1497-1511, 1959

10）Salber D., et al. : Cigarette Smoking among High School Students Related to Social Class and Parental Smoking Habits, American Journal Public Health, 51(12), 1780-1789, 1961

11）安栄鉄男：中学生，高校生ならびに非行少年についての喫煙に関する調査研究，学校保健研究，12(10), 465-474, 1970

12）野津有司：青少年の喫煙に関する調査研究，第２報，高校生の喫煙行動に関連する諸要因の検討，学校保健研究，27(4), 190-200, 1985

13）白水美智子ら：中学生の喫煙と諸因子との関連，第２報，喫煙行動と喫煙による健康障害に関する知識並びに生活環境との関連，日衛誌，40(3), 651-658, 1985

14）日本たばこ産業：平成２年全国たばこ喫煙者率調査，調査結果の概要，1990

15）村松常司ら：テレビたばこＣＭの放映状況とＣＭに対する小学生のイメージ，学校保健研究，32(5), 230-238, 1990

16）野津有司：青少年の喫煙に関する調査研究，第１報，高校生の喫煙率及び喫煙状況について，学校保健研究，26(12), 571-579, 1984

17）鈴木明：高校生における喫煙行動の形成要因に関する研究，立教女学院短期大学紀要，21号，29-48, 1990

18）白水美智子ら：中学生の喫煙と諸因子との関連，第１報，喫煙を初めて経験した時の諸状況並びに現在の喫煙習慣，日衛誌，40(2), 596-604, 1985

19）川畑徹朗ら：中・高校生の喫煙行動および喫煙に対する態度と知識，東京大学教育学部紀要，24巻，181-207, 1984

20）村松常司ら：タバコ煙による刺激的影響と不快感に関する研究，愛知教育大学研究報告，34輯，89-103, 1985

21）Colley J.R.T., et al. : Influence of Passive Smoking and Parental Phlegm on Pneumonia and Bronchitis in Early Childhood, The Lancet, 2（7888), 1031-1034, 1974

22）Cameron P., et al. : The Health of Smokers' and Nonsmokers' Children, Journal of Allergy, 43(6), 336-341, 1969

23）村松常司ら：喫煙の経験・習慣に影響を及ぼす諸要因の研究，第6報，子供の喫煙に関する親の意識調査（中・高校生について），学校保健研究，22(1)，27-38，1980